

安全データシート（SDS）

1.化学物質等及び会社情報

化学物質等の名称	防災衛生水
整理番号	BE-02
販売会社名	ユニトライク株式会社
住所	新潟市西区寺尾台 2 丁目 4 版 46 号 寺尾シティ 7 号
電話番号	025-201-7441
緊急時の電話番号	
FAX 番号	025-201-7445

2.危険有害性の要約

GHS 分類

物理的及び化学的危険性	区分外、分類対象外
健康に対する有害性	
急性毒性（経口）	区分外
皮膚刺激性	区分外
眼刺激性	区分外
特定標的臓器毒性-反復暴露	区分外
環境に対する有害性	
水性環境慢性有害性	データなし
特定標的臓器毒性-反復暴露	データなし

ラベル要素

絵表示又はシンボル	表記なし
注意喚起語	表記なし
危険有害性情報	表記なし

注意書き

【安全対策】	特になし
【応急措置】	吸入し、気分が悪い時は医師に相談すること 眼に入った場合、水で洗うこと、コンタクトレンズをしている場合は外し洗浄をつづけること。気分が悪い時は、医師の手当てを受けること。

【保管】

容器を密閉すること。
冷暗所に保管すること。

【廃棄】

内容物／容器を多量の水で希釈した後、廃棄する。

3.組成及び成分情報

化学物質・混合物の区分

分

一般名	次亜塩素酸の水希釈混合物				
成分	含有量	化学式	CAS 番号	EINECS	化審法番号
イオン交換水	99.98%	H ₂ O	7732-18-5		
HClO	0.02%	HClO	7790-92-3	232-232-5	

本製品は、通知対象物(労働安全衛生法)、第一種、第二種指定化学物質(化学物質管理促進法)、毒物、劇物(毒劇物取締法)に該当しない。

4.応急処置

吸入した場合

気分が悪くなった場合は医師に連絡すること。

皮膚に付着した場合

特になし。

眼に入った場合

水で数分間洗うこと。

コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。

眼の刺激が続く場合：医師の診断/手当てを受けること。

飲み込んだ場合

気分が悪いときは医師に連絡すること。

最も重要な徴候及び症状に関する簡潔な情報：

特になし

応急措置をする者の保護：

特になし

医師に対する特別注意事項：

特になし

5.火災時の措置

消火剤

粉末消火薬剤、泡消火薬剤、二酸化炭素、砂

不適正な消火剤

データなし。

特定の危険有害性

特になし

消火を行う者への勧告

特有の消火方法： 関係者以外は安全な場所に退去させる。

消火を行う者の保護： 消火作業の際は、必要に応じて適切な保護具（呼吸用保護具、防護服等）

を着用する

6.露出時の措置

人体に対する予防措置、 漏洩物に触れたり、その中を歩いたりしないこと。

保護具及び緊急時措置

環境に対する注意事項 環境中に放出しないこと。

7.取扱及び保管上の注意

取扱

注意事項 特になし

保管

保管条件 幼児の手の届かない所で、直射日光を避け暗所に保管する。

適切な保管条件 容器を密閉する。
換気の良い、冷暗所に保管する。

8. 暴露防止および保管措置

管理濃度： 設定されていない

許容濃度：

成分及び化学名	日本産業衛生学会(2002 年版) 化学特性	ACGIH (2002 年版) TLV-TWA(時間平均), TLV-STEL(短時間暴露限界).
次亜塩素酸	設定されていない。	設定されていない。
塩素	0.5ppm(C)/(1.5mg/m ³ (C)	0.5ppm 1ppm(C)

保護具：特になし

9.物理的及び科学的性質

外観

形状	液体
色	無色～淡黄色
PH	4.5～6.5
沸点	99.5℃
融点	データなし
引火点	データなし
発火点	データなし
爆発特性：爆発範囲	データなし
蒸気圧	データなし
蒸気密度	データなし
密度	0.999～0.998
溶解性	水、アルコールに可溶

10.安定性及び反応性

化学的安定性

化学的安定性： 予期される通常の保管及び取扱いにおいて安定と考えられる。
 危険有害反応可能性： 酸と接触すると塩素ガスが発生する。
 避けるべき条件： 酸との接触を避ける。
 混触危険物質： データなし
 危険有害な分解生成物： データなし
 その他： データなし

11.有害性情報

急性毒性

物質名	経口 LD50	経皮 LD50	吸入 LC50
ジーミスト	>2000mg/kg(Mouse)	N.A.	N.A.

皮膚腐食性及び皮膚刺激性

物質名	皮膚腐食性、刺激性分類根拠
ジーミスト	ウサギを用いた試験(OECD TG 404)において、ISO10993-10:2010,Biological evaluation of medical devices-Part10 に従って求めた一次刺激性インデックスは0であったことから「無刺激性」とした。

眼に対する重篤な損傷性又は眼刺激性

物質名	重篤な眼損傷性分類根拠
ジーミスト	ウサギを用いた試験(OECD TG 405)において、Draize 法に従って求めた平均合計評点の最高値は 1.3 であったことから、「無刺激性」とした。

吸引性呼吸器有害性

物質名	吸引性呼吸器有害性
ジーミスト	ICR 系マウス、雌雄各 5 匹計 10 匹について、山下らの方法を参考に 0.5 m ³ の実験槽を用いて間欠モードにて 7 時間の連続全身暴露（総量 183.4g）を行い、暴露開始から 14 日後まで一般状態の観察を行ったところ、異常はみられなかった。剖検においては雌 1 例で気管支腔内および気管支周囲における細胞浸潤ならびに気管支粘膜変性がみられたが、偶発的な変化と推察され、雄では変化はみられなかったことから、本試験条件下において、急性吸入毒性は認められなかった。

呼吸器感作性又は皮膚感作性

呼吸器

製品についての情報 : データなし

成分についての情報 : データなし

皮膚

製品についての情報 : データなし

成分についての情報 : データなし

変異原性

(生殖細胞変異原性)

製品についての情報 : データなし

成分についての情報 : データなし

発がん性

製品についての情報 : データなし

成分についての情報 : データなし

IARC : リストされていない

NTP : リストされていない

日本産業衛生学会 : リストされていない

生殖毒性

製品についての情報 : データなし

成分についての情報 : データなし

特定標的臓器毒性,単回ばく露

製品についての情報 : データなし

成分についての情報 : データなし

特定標的臓器毒性,反復ばく露

製品についての情報 : データなし

成分についての情報 : データなし

その他 : データなし

12.環境影響情報

生態毒性 : データなし

残留性・分解性 : データなし

生態蓄積性 : データなし

土壌中の移動性 : データなし

他の有害影響 : データなし

13.廃棄上の注意

残余廃棄物

下水道以外の河川等、公共水域への大量の廃棄は絶対に避ける。

産業廃棄物処理業者に委託する。

汚染容器及び包装

使い終わった容器は、水で十分に洗ってから処分する。

14.輸送上の注意

国際規制

国連分類： 国連勧告の定義上危険物に該当しない。

国内規制

陸上輸送： 消防法、労働安全衛生法等に定められている運送方法に従う。

海上輸送： 船舶安全法に定められている運送方法に従う。

航空輸送： 航空法に定められている運送方法に従う。

輸送の特定の安全対策

及び条件： 輸送に際しては、直射日光を避け、容器の漏れないことを確かめ、落下、転倒、損傷がないように積み込み、荷崩れの防止を確実に行う。

15.適用法令

国内適用法令

化学物質排出把握管理促進法:	該当しない
労働安全衛生法:	該当しない
毒物及び劇物取締法:	該当しない
火薬類取締法:	該当しない
高圧ガス保安法:	該当しない
消防法:	該当しない
化審法:	特定・監視・優先評価化学物質に該当しない
船舶安全法:	該当しない
航空法:	該当しない
海洋汚染防止法:	該当しない

物質登録情報：	ENCS(Japan)	有り
	TSCA(USA)	有り
	EINECS(EU)	有り
	ECL (Korea)	有り

16.その他の情報

このデータシートは、化学製品の工業的な一般的取扱いに際しての安全な取扱いについて、最新の各種文献に基づいて作成していますが、完璧なものではありません。

また、記載内容は情報提供でありいかなる保証や品質の仕様をなすものではありません。

新たな情報を入手した場合は、追加又は訂正されることがあります。

化学製品に他の化学物質を混合したり、特殊な条件で使用したりする時は、需要者各位が安全性の評価を実施し、自らの責任において個々の取扱い等の実態に応じた適切な措置をとられるようお願い致します。

引用文献

- 1) JIS Z 7253 GHS に基づく化学品の危険有害性情報の伝達方法-ラベル、作業場内の表示及び安全データ (SDS)
- 2) JIS Z 7252 GHS に基づく化学品の分類方法
- 3) (独)製品評価技術基盤機構「化学物質総合情報提供システム」
- 4) 国際化学物質安全性カード(I C S C)
- 5) ACGIH: Documentation of the Threshold Limit Values and Biological Exposure Indices, 7th Ed.
- 6) IARC Monograph
- 7) 日本産業衛生学会「許容濃度等の勧告」